

南九州大学人間発達学部子ども教育学科子どもの学び研究所の取り組み概要

子どもの学び研究所担当 赤松國吉
米良栄州
宮内孝
春日由美
趙雪梅

I. はじめに

子どもの学び研究所は、本学部開設準備を進めていた平成21年度、子どもの学び研究室として先行開設し、人間発達学部子ども教育学科が開設された平成22年度から子どもの学び研究所として活動を継続している。活動を開始後6年目となる活動について経過をまとめる。

II. 活動の具体

1 研究員の活動

研究員の活動は、月1回、16:30～18:00までの1時間30分、子どもの学び研究所にて実施することを原則としている。以下、平成26年度の取り組みの概要である。

(1) 主な研究内容

- ① 学部と連携拠点学校園との連携の内容、在り方について
- ② 本学部学生の研究発表等への指導

③ 本学学生への指導的立場からの活動

④ 本学部学生の小学校教育実習及び幼稚園教育実習の模擬授業の指導

年間3回、各40分、現在連携学校園においてリアルタイムで行われている教育活動の現状を、学生との対談の中で紹介し、学生の学問及び研究に対する視点が、常に教育現場の今日的課題から遊離することのないよう促す。加えて、教育現場の研究員から学ぶ姿勢を学生に身に付けさせることをねらいとして行う。

(2) 学部と連携拠点学校園との連携の内容、在り方の具体

本年度の学部と連携拠点学校園との具体的な連携については、平成22年度からの基本姿勢を継続しながら「子ども支援地域活動」において学生に具体的に携わらせることを原則とすることとした。ねらいは、小学校及び幼稚園並びに保育の場に学生が参加し、子どもを支える地域の活動に参加することを通して、子どもの地域に果たす役割を実践的に理解し、それを支える活動の意味を把

平成26年度 子どもの学び研究所としての取り組み		
月日	曜日	主な研究活動内容
5月27日	火	研究員委嘱状交付式・第1回研究員会議（研究員及び大学側関係教員紹介・計画立案について）
6月24日	火	第2回研究員会議 第3学年学生とのグループ別対談
7月29日	火	第3回研究員会議 第2学年学生とのグループ別対談（連携の具体的な進め方について）
10月28日	火	第4回研究員会議 小学校教育実習模擬授業への指導 幼稚園教育実習模擬授業への指導
12月16日	火	第5回研究員会議 上海師範大学語学研修体験発表2年生学生2名、4年生1名 山元華絵・尾前佳奈江・重永真奈美 語学研修の成果の発表についての指導
1月26日	月	第6回研究員会議 第1学年学生とのグループ対談
2月24日	火	第7回研究員会議 4年生学生の研究発表の指導、本年度の研究の総括について

握させ、学部の講義で学んだことを単なる知識として終わらせるのではなく、実践的な力へと発展させることである。

平成22年度が活動の開始年度として連携の基本的な事柄が整備された年として位置付けられる

のに加えて、平成23年度は連携活動を拡大し平成24年度・25年度は、連携活動がより円滑化した年として位置付けられる。

以下、平成26年度の連携活動の実際を、三股西小学校との連携を例として述べる。

期 日	曜日	時 間	主 な 研 究 活 動 内 容
5月13日	火	16:30～17:30	観察実習事前訪問 2年生5名(金丸英里香、高山美優、荒木秀太、仙波幸恵、富岡拓弥)の学生が訪問、校長先生ほか指導教員の先生との面談
5月20日	火	14:30～16:30	教育実習I事前訪問 3年生2名(伊勢知史、坂本渚)の学生が訪問、校長先生ほか指導教員の先生及び配当学級の児童との挨拶・面談・交流
5月26日	月	15:20～16:30	三股西小への大学担当教員赤松の訪問挨拶(教育実習I及び観察実習)校長先生ほか指導教員の先生との挨拶面談
5月28日 ～ 5月30日	水 金	8:00～17:00	観察実習として5名の学生が実習を実施 金丸英里香 高山 美優 仙波 幸恵 荒木 秀太 富岡 拓弥 ※ 5月31日 9:30～11:30まで担当教員として赤松國吉が訪問して校長他関係職員と面談 ※ 3年生2名・伊勢知史、坂本渚の事前指導の場にも活用
6月2日	月	7:30～8:30	観察実習生5名の学生が実習終了のあいさつ及び日誌の持参を行う
6月2日	月	14:30～15:30	三股西小学校の教育実習を指導する大学担当教員赤松が教育実習Iの表敬訪問
6月10日	月	8:00～13:30	教育実習I事前訪問 3年生2名(伊勢知史、坂本渚)の学生が訪問校長先生ほか指導教員の先生及び配当学級の児童との挨拶・面談・交流
7月8日	火	8:00～15:00	教育実習I事前訪問 3年生2名(伊勢知史、坂本渚)の学生が訪問校長先生ほか指導教員の先生及び配当学級の児童との挨拶・面談・交流
7月17日	木	8:00～15:00	教育実習I事前訪問 3年生2名(伊勢知史、坂本渚)の学生が訪問校長先生ほか指導教員の先生及び配当学級の児童との挨拶・面談・交流
9月26日	金	16:30～17:30	教育実習I事前訪問 3年生2名(伊勢知史、坂本渚)の学生が訪問校長先生ほか指導教員の先生及び配当学級の児童との挨拶・面談・交流
10月4日	土	8:00～17:00	教育実習I事前訪問 3年生2名(伊勢知史、坂本渚)が運動会の準備の手伝いとして参加する。
10月6日	月	7:30～17:00	教育実習I事前訪問 運動会当日 3年生2名(伊勢知史、坂本渚) 大学側からは春日由美准教授が訪問し、学生の激励と校長へ挨拶
10月20日	月	10:00～12:00	教育実習I事前訪問 3年生2名(伊勢知史、坂本渚)の学生が訪問校長先生ほか指導教員の先生及び配当学級の児童との挨拶・面談・交流

期 日	曜日	時 間	主 な 研 究 活 動 内 容
10月31日	金	9:50～11:45	幼保小連携交流活動のサポート支援活動 目的：子ども支援地域活動をとおして、幼保小連携について知るとともに、交流活動において、交流活動が充実するための支援をしたり園児や児童の様子、教員（教諭・保育士）の指導法を観察する。 ① 挨拶・打合せ・事前準備 ② サポート支援活動に参加した学生 池崎 花笑 合津 沙也加 早田 彩夏 梅ヶ谷 優紀 温水 麻里 古藤 祥実 福岡 栞 嶋田 万里子 池田 唯 伊勢 知史 坂本 渚 仙波 幸恵 高山 美優 金丸 英里香 田野 恵理華 本田 晴香 ③ 活動の後始末及び挨拶
11月10日 ～ 11月28日	月 金	7:50～17:00	教育実習Ⅰ 3年2組：坂本 渚 指導教員：黒木 千穂教諭 4年1組：伊勢知史 指導教員：安藤佐和子教諭 ※ 11月27日の伊勢（算数）と坂本（道徳）の研究授業には、2年生学生：荒木、富岡、吉田、本田、仙波、福元、高山、重永、金丸の9名と大学担当教員赤松國吉が参加し、学生の授業をVTR録画するとともに授業参観を実施
12月 1日	月	7:50～ 9:00	教育実習Ⅰ事後訪問 3年生2名（伊勢知史、坂元渚）の学生が訪問 最終的に仕上げた教育実習日誌の提出と校長及び関係職員への終了の挨拶を行う。

(3) 都城市及び三股町教育委員会及び曾於市教育委員会との共催事業「教師のカウンセリング的資質向上研修」の実施

この研修会は、春日由美准教授が、平成23年7月から平成24年2月にわたって実施した研修の2期目ともいえる研修である。対象は、幼稚園、小・中・高等学校及び特別支援学校学校などに勤務する現職の先生方を対象とした研修であり、1期目

の研修の再度の実現を望む数多くの要望に応じて実現したものである。

今回は、前回共催くださった都城市及び三股町教育委員会に加えて曾於市教育委員会も共催に参加され文字通り都城を中心としつつ鹿児島県にも裾野を拡大して実施することができた。

以下、本研修の要点及び実施結果について述べる。

※参考資料1 参照

① 都城市及び三股町教育委員会並びに曾於市教育委員会との共催事業であること	
② 実施の5原則	① 月1回実施 ② 7回連続受講が原則 ③ 研修時間は、勤務時間外90分（18:30～20:00） ④ 6回以上参加した受講者には研修修了証を授与 ⑤ 参加費：無料
③ 参加希望者数：61名	
④ 実施期日	第1回 9月10日実施 第2回 10月 8日実施 第3回 11月12日実施 第4回 12月10日実施 第5回 1月14日実施

第6回 2月18日実施

第7回 3月 4日実施

⑤ 修了証授与者数：26名

⑥ 研修内容及び参加案内状は次の通りである。(参考資料1)

⑦ 考察

本研修会を実施してまとめられることは次の点である。

- ① 現職の教員に必要な教師のカウンセリング的資質向上に関する研修のニーズの高さに支えられた極めて時季を得た事業であった。
- ② 本研修は7回連続1サイクルの研修であったが、継続的研修により力量向上を目指す現場的ニーズに十二分に応えうる研修と成り得た。
- ③ 春日准教授の講師としての力量及び専門性の高さが受講者の研修参加の意欲及び継続性の向上に大きく影響し、講師と受講者が信頼し合う研修と成り得た。

(4) 都城市との共催事業の実施

この事業は、本学部宮内孝教授及び趙雪梅講師が構想を練り、本学部子どもの学び研究所と都城市が共同主催する形の事業として実施始めて6年目を迎える事業である。平成23年度は経済協力開発機構の実施するOECD生徒の学習到達度調査PISAにおいて好成绩で名高いフィンランドか

ら2名の講師を招いて実施したが、平成24年度は特別支援教育にスポットを当てて実施し、平成25年度は数学教育にポイントを当てて開催した。そして本年度は運動遊びに焦点を当てて実施した。

以下、実施概要である。

※参考資料2参照

平成26年度 産学官連携バックアップセミナー

子どもの健やかな育ちをめざして～子どものからだと心を育む「運動遊び」～

主催：都城市・南九州大学人間発達学部「子どもの学び研究所」

1. 日時 平成27年2月28(土) 9時30分～12時30分

2. 場所 南九州大学都城キャンパス 体育館・2101教室・2102教室

3. 講座の内容

近年、子どものからだと心にかかわる様々な問題が生じています。

このような問題を解消する一つの手立てとして、「運動遊び」をテーマとして取り上げます。「運動遊び」は、体力の向上やよりよい人間関係づくりに役立ちます。そればかりではなく、脳を活性化しながら、活力を増進したり、やる気を高めたりするなど脳の健康にもよい効果を与えらるといわれています。

しかしながら、近年の社会状況の変化に伴って、子どもの「運動遊び」は減少し、テレビ、ゲームなどの電子メディアとかかわった静的で孤立化した遊びへと変化しています。

そこで、本講座では、「運動遊び」の実技や講演を通して、子どもを健やかに育てるために、社・地域ではどのような取組が必要かを参加者のみなさんと一緒に考えます。

4. 講 師

(1) 実技：親子で楽しむ「運動遊び」 渡辺敏明（信州大学准教授）・アシスタント1名
宮内 孝（南九州大学教授）

(2) 講演会：子どものからだを心で育む「運動遊び」
渡辺敏明（信州大学准教授）

	講 座	参加対象者	時 間	場 所
1	実技 親子で楽しむ「運動遊び」	・5、6歳児とその保護者 ・小学校1、2年生児童とその保護者	受付：9時～9時30分 実技：9時30分～10時45分	体育館
2	講演会 子どものからだを心で育む「運動遊び」	・実技に参加した保護者 ・講演会のみ参加者	受付：10時45分～11時 講演会：11時～12時30分 (開会行事10分含む)	2101 教室

(5) 平成26年度 免許状更新講習会実施報告

本学の免許状更新講習は、受講者同士が「じっくり語り合い・聴き合う」ことを通して、各先生方の今までの実践を振り返り、今後も先生としての自信と誇りをもって教壇に立ってもらいたいという願いで開講している。

① 必修領域

＜教育実践と教育改革＞

- ◇日 時 平成26年8月5日(火)～6日(水)
- ◇場 所 南九州大学都城キャンパス
- ◇参加者 37名

② 選択領域

＜特別なニーズのある子どもへの支援＞

- ◇日 時 平成26年7月30日(水)
- ◇場 所 南九州大学都城キャンパス
- ◇参加者 36名

③ 選択領域

＜特別支援教育における指導の実際＞

- ◇日 時 平成26年7月31日(木)
- ◇場 所 南九州大学都城キャンパス
- ◇参加者 30名

④ 選択領域

＜幼・童画について・工作の実践演習＞

- ◇日 時 平成26年8月1日(金)
- ◇場 所 南九州大学都城キャンパス
- ◇参加者 20名

の4つの講座を行い、合計123名の参加者があった。

(6) 中国上海師範大学との連携

昨年度、上海師範大学との交換留学生についての協定締結を行い、本年度も4年生学生1名、2年生学生2名が4週間の語学研修に参加した。具体的には次の通りである。

期 間	研 修 場 所	学年	参加学生氏名
平成 24 年 7 月 9 日(月)～ 8 月 17 日(金)	上海師範大学対外漢語学院	2	福岡 葉
		2	山元 華絵
		2	早田 彩夏
平成 25 年 7 月 13 日(土)～ 8 月 24 日(土)	上海師範大学対外漢語学院	2	東 貴秋
		2	温水 礼子
		2	黒木 静香
平成 26 年 7 月 17 日(木)～ 8 月 15 日(金)	上海師範大学対外漢語学院	4	山元 華絵
		2	尾前佳奈江
		2	重永真奈美

(7) テクニカルレポートの発行

子どもの学び研究所では、本学部教員が研究した論文等をテクニカルレポートとして発行している。平成21年度からこれまでの累積は次の表の通りである。

番号	論文等のタイトル	発行期日	教員氏名
1	小学校社会科教育に関する教材開発集・社会科編第1号 小学校社会科5年生の教科教育に位置付けた平成17年台風14号	H21.9.30	赤松 國吉
2	小学校社会科教育に関する教材開発集・社会科編第2号 小学校社会科教育において児童の主体的な学びを促す実践研究	H21.10.30	赤松 國吉
3	現代社会と道徳教育 — 「市民教育としての道徳教育」の提唱 —	H21.11.30	澁澤 透
4	子どもたちのいまと子育てについて考える — 自己肯定感を高める子育てに向けて —	H22.1.30	澁澤 透
5	大学における子育て支援の現状と課題	H22.3.1	春日 由美
6	子どもの年齢による子育ての悩みの差異に関する一考察 — 乳幼児から中学生の保護者への質問紙調査を通して —	H22.3.25	春日 由美
7	子どもの内発的興味関心を喚起し、能動的に調査活動に取り組む小学校社会科の教材開発 — 平成18年台風13号による宮崎県延岡市の被害 —	H23.3.25	赤松 國吉
8	教師と保護者との関わりに関する文献的研究	H23.3.31	春日 由美
9	小学校6年生「電子メディアと心身の発達を考える」授業実践報告	H23.3.31	宮内 孝
10	「大正新教育における学校図書館の理論と実践に関する一考察」	H23.3.31	國枝 裕子
11	今後の子どもの遊びの在り方を考えるための一考察	H24.3.26	宮内 孝
12	内発的興味関心を喚起する学習問題の設定	H24.3.31	赤松 國吉
13	単元の展開・構成の在り方についての一考察	H25.3.25	赤松 國吉
14	ボールを捕る動きを引き出す教材づくりのための準備的一考察	H25.3.29	宮内 孝
15	学習意欲を喚起するための社会科学習指導についての一考察	H26.3.25	赤松 國吉
16	探究的行動力の育成を目指す小学校社会科学習指導についての一考察	H27.3.16	赤松 國吉

2 今後の展望及び課題

本学部及び小学校並びに幼稚園が相互の連携協力を深め、お互いの研究や資質向上を目指し、教育現場と大学がそれぞれの立場や角度から学びあ

いながら相互の連携の在り方についての研究及び人間の発達や育ちに関する研究を進めることをねらいとして活動を開始して6年を経過する。

昨年度は、曾於市教育員会とも連携関係協定を締結したこともあって、小学校教育実習Ⅱにおけ

る実習校として曾於市教育委員会のご協力、そして、本年度は教育実習Ⅰへのご協力を戴いた。

未来に向けては、都城及び三股町そして曾於市を含むこの地域の教育現場の教員や学生そして大学関係者が、互いの垣根を低くして実践研究を協働し、この地域の教育の核となるような取り組みへと活動を拡大することを究極のねらいとしている本研究所の取り組み、少しずつ、着実な成果が

生まれようとしている。

今後、本学部と学部を取り巻く地域との関わりの中で、どのように連携を図りながら、組織化を促し、研究を結実していく着実な歩みの中から生み出していきたいものである。

※参考資料 1

主催：南九州大学人間発達学部子どもの学び研究所
共催：都城市教育委員会、三股町教育委員会、曾於市教育委員会

第2回 教師のカウンセリング的資質向上研修 基礎編

子どもや保護者ともっと上手に関わりたい

子どもや保護者を理解するって、どういうこと？

教育相談の力を付けたいが、どうしたらいいかわからない

カウンセリングマインドって、実はよく分からない

こんな経験ありませんか？

教育相談の研修を一度受けたが、あまり身につかなかった

⇒ 今回の研修は7回継続して行うことで、段階を踏みながら、しっかりと力を身につけていきます。

カウンセリングについて、本を読んだが、よく分からなかった

⇒ 今回の研修では講師の臨床心理士が具体的に解説しながら、ワークを交えて、体験的に学びます。

いろいろな人間関係が、ストレスになることがある

⇒ 今回は人間関係の基礎になる、自分の考え方のくせや人間関係の持ち方についても振り返り、ストレスをためすぎない方法についてもワークを交えて学びます。



**みんなが笑顔になれるように、
いっしょに学びましょう**

第2回 教師のカウンセリング的資質向上研修 基礎編

さまざまな子どもや保護者との関わり方の基礎になるのが、「子どもや保護者を理解し関係をつくること」「教師が自分自身を理解し精神的に安定していること」です。これらについて講義やワーク、ケース検討をもとに、カウンセリングの視点から体験的に学びます。全7回の継続研修を行うことで、基礎的なカウンセリング的資質の向上を目指します。

1. 日程と場所 日曜（予定）：全7回、1回1時間半（水曜日 18：30～20：00）
（平成26年9月10日、10月8日、10月15日、12月10日、平成27年1月14日、2月18日、3月4日、平成27年3月4日（水）20時）
 場所：南九州大学都城キャンパス（都城市立野町3764番地） ☎0986-21-2111（代）（駐車場有）
2. 対象 小・中・高等学校・特別支援学校に勤務されている先生で守秘義務を守ることができる。
（7回を1サイクルとしてプログラムした研修です。出席が7回ご参加下さい。7回以上参加の方に研修書をお渡しします。）
3. 目的 子どもや保護者を理解し、適切に関わり援助するための、基本的な資質の向上を目指します。そのための教師自身の自己理解や気持ちのおさめ方についても理解を深めます。
（可能であれば、アンケート調査での研修の効果研究への協力をお願いします。協力は自由です。）
4. 研修内容 （内容は多少変更になることがあります。詳細は裏面をご覧ください。）
 1回目：①オリエンテーション ②自己理解と自分の考え方の癖
 2回目：①自己開示の大切さ ②傾聴訓練 ③自己受容と他者受容
 3回目：①ここを理解し大切に ②本当の共感的理解
 4回目：①ここを理解し大切に ②カウンセラーの道徳・電話のコツ
 5回目：①カウンセリングの視点からの共感的な子ども・保護者理解
 6回目：①カウンセリング的視点からの多面的なケース理解
 7回目：①ケース検討 ②復習と閉会式
5. 講師 南九州大学 人間発達学部子ども教育学科 春日由美（博士（心理学）・臨床心理士）
講師紹介：九州大学大学院博士後期課程修了。九州内の小・中・高等学校におけるスクールカウンセラーや教師等への研修経験、精神科クリニックや九州大学大学院附属心理教育相談室等でのカウンセリング経験も豊富である。現在、南九州大学人間発達学部附属子育て支援センターにて不登校や発達障害等への相談業務も行っている。心理学の専門的知識と臨床心理士として経験をもとに、今回の研修の講師を務める。
6. 費用・申し込み方法 **必ず8月1日からお申し込み下さい。**
 費用：無料
 申込み期間：平成26年8月1日～8月20日（定員50名。定員になり次第締め切らせていただきます。）
 申込み方法：E-mailにてお申し込み下さい。[E-mailアドレス]：kasuga@nankyu.ac.jp
◆参加申し込みメールに、①～⑥のすべてを記載して送信してください。
 ①お名前（ふりがな） ②年齢 ③現住所 ④電話番号 ⑤所属機関
◆一週間以内にお返事がない場合は、メールが届いていない場合が考えられます。たいへんお手数ですが、必ず電話にてご確認ください。
研修に関するお問合せ先：南九州大学人間発達学部
 担当：春日 ☎0986-21-2111（代）

3 研究員名簿及び大学側関係教員名簿

整理番号	平成 21 年度			平成 22 年度		
	連携学校園名	職名	氏名	連携学校園名	職名	氏名
1	天竜幼稚園	教諭	上原 睦子	天竜幼稚園	教諭	上原 睦子
2	天竜第二幼稚園	教諭	北園 由美子	天竜第二幼稚園	園長	荒武 公治
3	天竜第三幼稚園	教諭	川野 あや子	天竜第二幼稚園	教諭	北園 由美子
4	天竜祝吉幼稚園	教諭	田実 美幸	天竜第三幼稚園	教諭	川野 あや子
5	都城市立南小学校	教諭	西村 浩一郎	天竜祝吉幼稚園	教諭	田実 美幸
6	都城市立東小学校	教諭	田爪 隆敏	都城市立南小学校	教諭	鶴山 匡文
7	都城市立上長飯小学校	教諭	田中 美充	都城市立東小学校	教諭	大久保 修
8	都城市立祝吉小学校	教諭	甲斐 千恵	都城市立上長飯小学校	教諭	田中 美充
9	三股町立三股小学校	教諭	細山田 和彦	都城市立祝吉小学校	教諭	渡邊 政彦
10	三股町立三股西小学校	教諭	二宮 聡	三股町立三股小学校	教諭	細山田 和彦
11				三股町立三股西小学校	教諭	二宮 聡

整理番号	平成 23 年度			平成 24 年度		
	連携学校園名	職名	氏名	連携学校園名	職名	氏名
1	天竜幼稚園	教諭	上原 睦子	天竜幼稚園	教諭	上原 睦子
2	天竜第二幼稚園	園長	荒武 公治	天竜第二幼稚園	園長	佐々木 慈舟
3	天竜第二幼稚園	教諭	北園 由美子	天竜第二幼稚園	教諭	北園 由美子
4	天竜第三幼稚園	教諭	川野 あや子	天竜第三幼稚園	教諭	川野 あや子
5	天竜祝吉幼稚園	園長	大坪 文二	天竜祝吉幼稚園	園長	大坪 文二
6	天竜祝吉幼稚園	副園長	佐々木 慈舟	天竜祝吉幼稚園	教諭	田実 美幸
7	天竜祝吉幼稚園	教諭	田実 美幸	都城市立南小学校	教諭	新島 浩光
8	都城市立南小学校	教諭	鶴山 匡文	都城市立東小学校	教諭	池田 佳弘
9	都城市立東小学校	教諭	大久保 修	都城市立上長飯小学校	教諭	田中 美充
10	都城市立上長飯小学校	教諭	田中 美充	都城市立祝吉小学校	教諭	川崎 史郎
11	都城市立祝吉小学校	教諭	中村 辰郎	三股町立三股小学校	教諭	土田 史典
12	三股町立三股小学校	教諭	細山田 和彦	三股町立三股西小学校	教諭	二宮 聡
13	三股町立三股西小学校	教諭	二宮 聡			

整理番号	平成 25 年度			平成 26 年度		
	連携学校園名	職名	氏名	連携学校園名	職名	氏名
1	天竜幼稚園	教諭	上原 睦子	天竜幼稚園	教諭	上原 睦子
2	天竜第二幼稚園	園長	佐々木 慈舟	天竜第二幼稚園	園長	佐々木 慈舟
3	天竜第二幼稚園	教諭	北園 由美子	天竜第二幼稚園	教諭	北園 由美子
4	天竜第三幼稚園	教諭	山城 隆子	天竜第三幼稚園	教諭	山城 隆子
5	天竜祝吉幼稚園	園長	大坪 文二	天竜祝吉幼稚園	園長	大坪 文二
6	天竜祝吉幼稚園	教諭	田実 美幸	天竜祝吉幼稚園	教諭	田実 美幸
7	都城市立南小学校	教諭	新島 浩光	都城市立南小学校	教諭	内藤 博文
8	都城市立東小学校	教諭	池田 佳弘	都城市立東小学校	教諭	田中 美充
9	都城市立上長飯小学校	教諭	佐藤 須三郎	都城市立上長飯小学校	教諭	佐藤 須三郎
10	都城市立祝吉小学校	教諭	浅井 俊博	都城市立祝吉小学校	教諭	大久保 修
11	三股町立三股小学校	教諭	土田 史典	三股町立三股小学校	教諭	溝口 常彦
12	三股町立三股西小学校	教諭	鹿嶋 美由紀	三股町立三股西小学校	教諭	大浦 英二郎

整理 番号	平成 21 年度			平成 22 年度		
	大学学部名	職名	氏名	大学学部名	職名	氏名
1	南九州大学環境造園学部	教授	長谷川 二 郎	南九州大学環境造園学部	教授	長谷川 二 郎
2	南九州大学教養・教職センター	教授	黒 木 哲 徳	南九州大学人間発達学部	教授	黒 木 哲 徳
3	南九州大学教養・教職センター	教授	赤 松 國 吉	南九州大学人間発達学部	教授	赤 松 國 吉
4				南九州大学人間発達学部	准教授	宮 内 孝
5				南九州大学人間発達学部	助手	趙 雪 梅

整理 番号	平成 23 年度			平成 24 年度		
	大学学部名	職名	氏名	大学学部名	職名	氏名
1	南九州大学環境造園学部	教授	長谷川 二 郎	南九州大学教養・教職センター	教授	長谷川 二 郎
2	南九州大学人間発達学部	教授	黒 木 哲 徳	南九州大学人間発達学部	教授	黒 木 哲 徳
3	南九州大学人間発達学部	教授	赤 松 國 吉	南九州大学人間発達学部	教授	赤 松 國 吉
4	南九州大学人間発達学部	准教授	宮 内 孝	南九州大学人間発達学部	准教授	宮 内 孝
5	南九州大学人間発達学部	准教授	春 日 由 美	南九州大学人間発達学部	准教授	春 日 由 美
6	南九州大学人間発達学部	講師	大 崎 裕 子	南九州大学人間発達学部	講師	大 崎 裕 子
7	南九州大学人間発達学部	助手	趙 雪 梅	南九州大学人間発達学部	助手	趙 雪 梅

整理 番号	平成 25 年度			平成 26 年度		
	大学学部名	職名	氏名	大学学部名	職名	氏名
1	南九州大学教養・教職センター	教授	長谷川 二 郎	南九州大学教養・教職センター	教授	長谷川 二 郎
2	南九州大学人間発達学部	教授	黒 木 哲 徳	南九州大学人間発達学部	教授	内 田 孝 夫
3	南九州大学人間発達学部	教授	赤 松 國 吉	南九州大学人間発達学部	教授	赤 松 國 吉
4	南九州大学人間発達学部	教授	宮 内 孝	南九州大学人間発達学部	教授	米 良 栄 州
5	南九州大学人間発達学部	准教授	春 日 由 美	南九州大学人間発達学部	教授	宮 内 孝
6	南九州大学人間発達学部	講師	大 崎 裕 子	南九州大学人間発達学部	准教授	春 日 由 美
7	南九州大学人間発達学部	講師	趙 雪 梅	南九州大学人間発達学部	講師	趙 雪 梅